

(様式 1 - 表)

令和 7 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	57	豊田市立 道慈小 学校	代表	成瀬久美子
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	ふるさと小原のよさを学び、未来につながる子どもの育成	分野	h	伝統文化
		i(その他) は分野を右欄に記入		
学校づくりの視点（ねらい）	サブテーマ ～道慈ふさと学習を通して～ 小原のひと・こと・ものから学ぶ活動を通して、小原の人たちの地域への思いに触れさせることで小原のよさを発見・理解し、「ふるさと小原」に愛着をもち、将来の小原について考えようとする子に育てる。そのために、次の 4 点を具現化する。 ①小原の伝統文化・芸能（小原歌舞伎体験・小原和紙の制作）を体験し、それらを誇りに思う気持ちを高める。 ②小原の気候を生かした作物を育てる活動や小原の特色・四季桜などの調べ学習を通して、小原の自然の豊かさに気付き、その自然を守ろうという気持ちを高める。 ③生活科や総合的な学習の時間で、町探検や小原の自然、人、歴史、伝統文化などをテーマに取り上げ、交流・体験活動を交えた学習を通して追究力を鍛え、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を伸ばす。 ④へき地小規模校の強みを生かすために、補助員を配置し、そのきめ細やかな指導や支援を受けることで、道慈小学校の教育活動を充実させる。			
活動内容・計画	活動内容 ①全校児童で、小原の伝統工芸である和紙作品づくりを通して和紙のよさを感じ取り、その取組を衣丘小の交流に生かす。 ②栽培活動で野菜を育てることを通して、地域の農業や食文化について体験的に学ぶ。 ③各学年の生活科や総合的な学習の時間に小原地区をテーマにしたり関連させたりした学習を計画し、授業参観等で学習の成果をまとめて発表する。 1・2 年 小原・道慈に住む生き物を飼育したり観察したりすることで、自然について学習したり、町について調べたりする。 3・4 年 地域の福祉施設や和紙工房などの訪問・交流・小原歌舞伎を演じることを通して、地域の特色を学ぶ。 5 年 水田や畑で米や野菜を栽培し、小原の米作りについて全国の米作りと比較しながら学ぶ。 6 年 小原の歴史、自然、文化、特色について学ぶ。 全校 5 月衣丘小 4 年児童来校の際、小原の伝統食である五平餅と一緒に作り、地域の食文化について学ぶ。 ④体力向上補助指導員や校内整備員の専門的な指導や支援を受け、学習環境を整える。 活動計画 4 月 栽培活動や「道慈ふさと学習」の計画を立てる。（全学年） 5 月 田おこしや代掻き、田植えを行い、稲作りを進める（5 年生） 衣丘小学校を招き、五平餅と一緒に作り交流する。（全校） 6・7 月 伝統工芸の和紙作品作りに取り組む。（全学年） 和紙の歴史等について追究学習を行う。（4 年生） 生活科や総合的な学習の時間で、調べ学習や施設訪問、地域講師を招いての講演などを行い、追究学習を進める。（全学年） 9 月 稲刈り・脱穀を行う。（5 年生） 伝統文化の「小原歌舞伎」を学ぶ。（3・4 年） 1 1 月 生活科や総合的な学習で、調べ学習や施設訪問、地域講師による講話など、追究学習を進める。（全学年） 1 月 カンゾカシキに参加する。（3・4 年生）発表に向けて追究学習を進める。（全学年） 2 月 発表を行う。			
補助員配置	体力向上補助指導員 校内整備委員			
実績・期待される効果	・地域の歴史や文化、自然を学ぶことにより、ふるさとへの誇りと愛着をもち。 ・地域講師から学ぶことで、小原に住む人たちの地域への思いを感じ取る。 ・体験を重視した活動を通して、児童の追究力を鍛え、思考力・表現力を伸ばす。 ・体力向上補助指導員を配置することで、体育の好きな児童が増え、運動量の確保、技術の向上、個別指導の充実を図る。 ・校内整備員を配置することで、校地整備が進み、学習環境が安全かつ使いやすくなる。			
検証方法	・和紙作品づくりでできた作品や上演した歌舞伎と児童の感想 ・「保護者アンケート」の結果や地域講師の方からの評価 ・今年度と昨年度の体力テストの結果の比較・分析 ・体育の授業の振り返りや感想、なわとび大会などの大会での児童の記録や感想 ・校地整備の状況や担任・校務主任の畑や水田などの環境整備にかかる時間の削減状況			